

「元気が一番」塾

2006.5.20 優しい風 (Loving-wind) 仲島

1. 子どもの自尊感情を育てるために ～「ほめる」のすすめ～

- ・子どもは「ほめて育てよ」と言われるが、子どもも大人もほめられるとうれしいもの
- ・自尊感情が低い子は、ほめられた経験が少ない
- ・何をほめるのか・・・おべんちゃらは通用しない。教師が感動したことをほめる
- ・いつほめるか、原則はその時その場で「ほめる」 低学年は特にその時にほめる
- ・その場以外で「ほめる」こと・・・字にしてほめる、言葉にしてほめる

→連絡帳、電話、学級通信、懇談会、通知表、家庭訪問

- ・間接的にほめられるのも、またうれしいもの

※「ほめる」だけではなく、悪いことは悪い！とはっきりと言う教師であること。「ほめる」のは子どもの機嫌をとることではない。毅然とした態度で怒ることも必要。

2. 心をつなぐ「5分間家庭訪問」

- ・教育は足でかせぐ・・・教育は今日行く
- ・学期当初の家庭訪問は儀式と同じようなもの 本当の家庭訪問は、それ以外の時
- ・しんどい子ほど足を運んでやること
- ・わざわざ私のためだけに・・・それだけで子どもも親も安心する
- ・後追い指導は後手後手になる。先手必勝。問題が起こる前に行くこと
- ・何を言いにいくのか？ 玄関先で少し話すだけ・・・それがコツ

→いいこと、成長したこと、うれしかったこと・・・悪いこと以外はなんでもいい
言うことがない時でも

「近くまできたので、ちょっと寄りました」

「今日ちょっと元気がないように見えたのでどうかなと思って来ました」

(→本当は元気なのはわかっている、そう言うと親はうれしいもの)

- ・5分間家庭訪問は、月日(つながり、気づき、ひろがり)の取り組み
- ・最初の一步を踏み出すことができれば、5分間家庭訪問ほどおもしろいものはない
- ・不登校の子への5分間家庭訪問は？

→担任が一人で責任を背負い込まないこと みんなで気楽に続ける

がんばらなくていい・・・でもあきらめない取り組みを

うまくいく日とうまくいかない日があって当たり前 門前払いもあって当然

3. 遠足・自然学校で子どもを育てる

- ・遠足的行事は、子どもを育てる絶好の機会 いい計画は教師の腕の見せ所

→集団行動を鍛える ルールやマナーを実際の場面を通して教える

班の仲間意識を育てる 班編成やお弁当の食べ方 放任はダメ

4. 給食指導で学級づくりをする

- ・給食当番をどう育てるか。先生が全部してしまわないこと
- ・給食のトラブルこそ大切な指導の場面。こぼれた時にどうするか

次回の予定 6月17日(土) 10:00～12:00 若竹公民館3F 講堂(運動の出来る服装で)

- ・低学年の体育指導について 実技を通しての研修